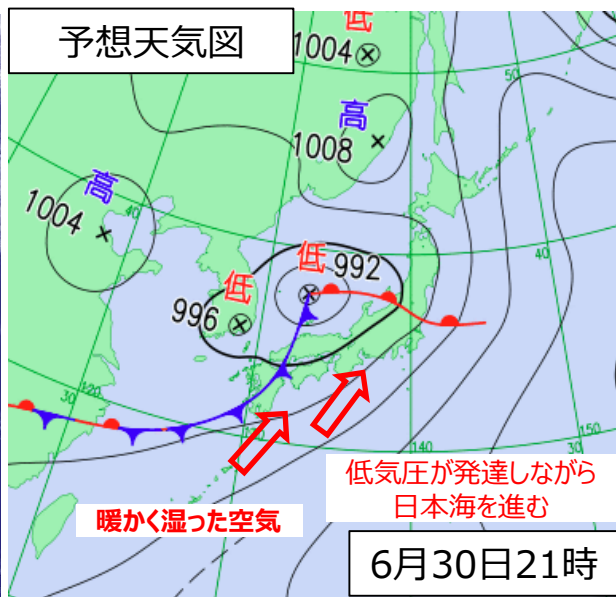
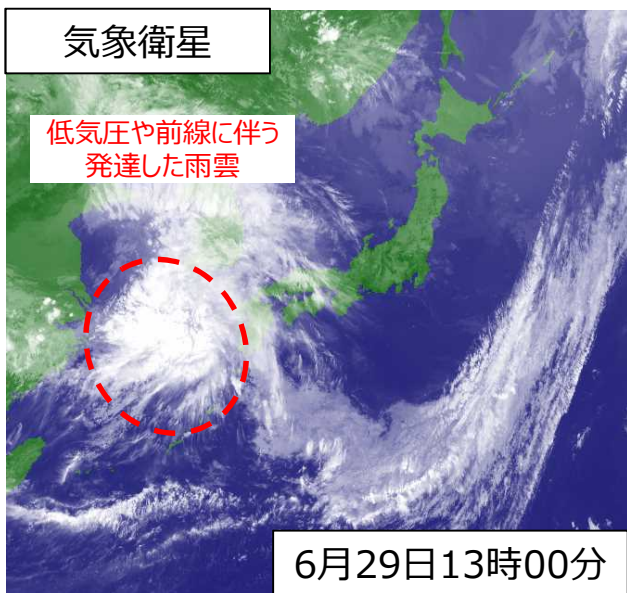


令和2年6月29日13時00分

＜概況＞ 黄海にある低気圧が30日にかけて発達しながら日本海を東進し、低気圧中心から東シナ海を通過して九州の南へ伸びる前線がこれから30日にかけて西日本、東日本を北上する。この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動は活発で大気の状態も非常に不安定となり、大雨となる見込み。

＜大雨＞ 西日本と東日本では、29日夕方から30日にかけて雷を伴って激しい雨が降り、西日本を中心に局地的に1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が降るおそれがある。30日6時までの24時間に予想される雨量（多い所）は九州北部地方や九州南部で100から150ミリ、その後の7月1日6時までの24時間では、四国地方や近畿地方、東海地方で200から300ミリとなる見込み。状況によっては、中国地方などでは局地的に予想雨量（下表参照）より多くなる可能性もある。

＜警戒事項＞ 九州などでは週末の大雨で地盤の緩んでいる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒・注意。落雷や竜巻などの激しい突風に注意。各地の気象台が発表する警報等の気象情報や気象庁ホームページの危険度分布に留意。



■ 予想される24時間雨量（多い所） 単位ミリ

	30日6時まで	1日6時まで
北陸地方	15	100～150
東海地方	20	200～300
近畿地方	40	200～300
中国地方	80	50～100
四国地方	80	200～300
九州北部地方	150	100～200
九州南部	100	100～200

日	時	29日		30日	1日
		12～18	18～6	6～24	
北陸地方	大雨				
東海地方	大雨				
近畿地方	大雨				
中国地方	大雨				
四国地方	大雨				
九州北部地方	大雨				
九州南部	大雨				

大雨の警報級となる可能性のある期間  
 (■ 可能性がある、■ 可能性が高い)